



自分おこしで まちおこし

はしもとあきお
橋本昭男
じょうよう
城陽市長(京都府)
Akio Hashimoto

元気で長生き

私は今年の4月に「元気で長生きする」という宣言をしました。その具体策として考えたのが「禁煙」と「1日1万歩を歩く」の2つです。

もともとヘビースモーカーであり、数度の禁煙を試みたことはありませんが、いずれも完全にはやめきれずにおりました。しかし、今回は半年が経過しましたが、タバコとの縁は切れたままです。

もう1つは「1日1万歩を歩く」。体を動かすことは苦ではありませんが、何よりも歩く時間を捻出することが困難でした。日中はもちろん公務がありますし、夜に行われる会議や会合も多く、自然と早朝の時間をウォーキングに使うこととなります。長年趣味としての畑仕事が好きで、早起きには慣れていたこともあり、早朝ウォーキングは容易に毎日の習慣と



「TWINKLE JOYO」のキャラクター「イルミン」とシンボルツリー

になりました。夜明けとともに起きだして、1時間ほどかけて歩きます。ウォーキングを始めると、早朝であっても、同じくウォーキングや犬の散歩をされる方など、意外と人通りが多いのに驚きました。顔見知りになつておられる方も多く、新入りの私にも、「おはようございます」と声をかけてくださいます。みなさん方も健康志向な方ばかり、目的は同じですからすぐ仲間入りです。

城陽自分おこし事業

私は城陽で生まれ育ち、城陽町役場、城陽市役所と奉職、平成13年に退職して市長に当選してから、ちょうど10年目を迎えています。市長という立場だけでなく、ふるさと城陽をもっとよいまちにしたい、活気あふれるまちにしたいという思いは誰にも負けないと自負しています。いずれの市長さんも同じような思いをお持ちであり、地域の活性化、いわゆる「まちおこし」にはあの手の取り組みをされていることかと思えます。

「まちおこし」といつてまず浮かぶのは、地域の特産品や文化遺産のPR、また最近では、ご当地キャラクターや奇抜なイベントを企画して成功を取っている自治体もあります。もちろん城陽市でも、市民、地元事業者、行政の協働での「まちおこ



平成21年の「TWINKLE JOYO」オープニングセレモニー

し」が盛んに行われています。最近では、地場産業である金銀糸を「燦彩糸」と名づけたブランド化が進められていますし、城陽市総合運動公園を40万球のイルミネーションで飾る「TWINKLE JOYO」は昨年で8回目を数え、市の内外から10万人が訪れる大イベントになりました。

近年の市政運営は、行政だけでなく、民間との協働で行うことが当然となっており、知恵をしばった「まちおこし」には、力づけられるものがあります。

さらに私は、市のPRやイベントの開催といったことではなく、もっと城陽市

を形作る一人一人が元気になることでまちを活性化できないかと考えていました。そのような思いから、本年4月に立ち上げたのが「城陽自分おこし事業」です。

この事業には決まった形式も方法もありません。市民が自分の目標のためにがんばり「自分おこし」をすることで自分自身が元気になり、そのことによって周りの人々を元気にさせ、ひいてはまちが活性化し「まちおこし」となるものです。今年度の新設した「自分おこし推進係」を中心に、庁内の各部署から集まったプロジェ



「城陽自分おこし事業」出動式での筆者

クトチームが、この前例のない事業をどうやって進めていくか知恵を絞っています。事業では城陽出身の書家 俵越山さんに「城陽自分おこし隊長」に就任していただきました。俵隊長は、以前は越前屋 俵太の名でタレントとして活躍されていた方です。現在は、自分の目標を宣言していただく「自分おこし宣言」を募集しており、俵隊長が市内を走り回って、宣言をお願いしているところです。市役所の職員でなく俵隊長が訪ねることで、幅広い意見を拾い上げることができ、隠れた市民ニーズをつかむ機会にもなっています。8月末までに329件の宣言があります。宣言の内容は「日本一周」「ダイエット成功」「介護福祉士を目指す」「地域のために活動する」などさまざまです。宣言内容はホームページでも公開していますので、ぜひご覧ください。みなさんが心の中に持たれている目標が、宣言することによって明確になり、それを実現するきっかけとなるよう期待しています。もちろん、市役所の職員からも宣言を受け付けており、自分の仕事を見直すチャンスとして活用してほしいと願っています。

私の自分おこし

当然のことながら、事業の発案者として私自身も宣言しない訳にはまいりませ

ん。私の自分おこし宣言は、最初は「ピンピンころり」にするつもりでしたが、思い直して、先にご紹介した「元気で長生きする」にいたしました。今までも、人生は健康が第一であると思っておりましたが、どんな困難な事業でも粉骨砕身で取り組む気概はありますが、体がついていきませんと、やはりつらいものがあります。また、忙しく過ごしてきましたので、家族との時間も楽しんでいたという思いから「元気で長生き」といたしました。

「自分おこし宣言」は市民の方だけに限りません。どなたでも宣言していただけます。インターネットからも受付しておりますので、みなさんも宣言してみませんか。



市民に「自分おこし」のインタビューをする俵越山隊長